

**令和3年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
免許状更新講習**

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な体験活動の指導技術を身につける。また、新学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和3年8月11日（水）～8月13日（金） 2泊3日（日帰り参加可）

(2) 参加者

① 募集対象・人数

小学校教諭（幼稚園教諭・中学校教諭・高等学校教諭も受講可）・35人

② 参加人数

6人

(3) 講師等

① 講義1・実習1「体験活動の導入とその指導法」

講師：山本 豊（国立吉備青少年自然の家 次長）

② 実習2「火起こし体験と野外炊事の理論と実践」

講師：延原 正章（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職）

③ 実習3「カッター活動の教育効果と実習」

講師：乗本 雅彦（国立吉備青少年自然の家 主任企画指導専門職）

④ 講義2「教育の現状と課題」

講師：下山 郁子 氏（岡山県教育庁義務教育課 参事）

⑤ 講義3「集団宿泊体験活動の企画・運営」

講師：高藤 佳明（国立吉備青少年自然の家 所長）

⑥ 実習4「オリエンテーリングの指導法と実践」

講師：延原 正章（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職）

⑦ 講義4「体験活動の意義と学習指導要領」（オンライン）

講師：杉田 洋 氏（國學院大學 人間開発学部 教授）

(4) 企画・運営のポイント

① 新型コロナウイルスの感染拡大防止を考え、机の間隔を空け、活動の前後にアルコール消毒を実施した。

② 猛暑の8月に実施するため、参加者の健康・安全に留意し、余裕を持った時間設定で活動プログラムを行い、適度に休憩をとれるようにした。

3. 活動の内容等

(1) 日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
1日目 8月11日(水)				受付 開講式	講義・実習 「体験活動の導入と その指導法」 【次長】	実習 「火起こし体験と野外炊事の 理論と実践」 【企画指導専門職】	休憩	実習 「カッター活動の教育効果と 実習」 【企画指導専門職】	夕食 休憩	入浴 休憩	自習・休憩	就寝 準備	就寝					
2日目 8月12日(木)	起床 洗面	朝の つどい	朝食 休憩	清掃	所内 移動	講義 「教育の現状と 課題」 【下山先生】	休憩	昼食 休憩	講義 「集団宿泊体験活動 の企画・運営」 【所長】	実習 「オリエンテーリングの 指導法と実践」 【企画指導専門職】	夕食 休憩	入浴 休憩	自習・休憩	就寝 準備	就寝			
3日目 8月13日(金)	起床 洗面	朝の つどい	朝食 休憩	清掃	所内 移動	講義 「体験活動の意義と 学習指導要領」 【杉田先生】	認定 試験 について	昼食 休憩	評価 「履修認 定試験」	閉 講 式								

(2) 活動の状況



【体験活動の導入とその指導法①】



【体験活動の導入とその指導法②】



【火起こし体験と野外炊事の理論と実践①】



【火起こし体験と野外炊事の理論と実践②】



【カッター活動の教育効果と実習①】



【カッター活動の教育効果と実習②】



【教育の現状と課題】



【集団宿泊体験活動の企画・運営①】



【集団宿泊体験活動の企画・運営②】



【オリエンテーリングの指導法と実践①】



【オリエンテーリングの指導法と実践②】



【体験活動の意義と学習指導要領】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：87% やや満足13%

(2) 参加者の声

- ① 最新の教育情勢を知ることができ、ありがたかった。
- ② 体験活動と講義がうまく組み合わせられていて、スムーズに受講することができた。
- ③ 適度な休憩時間があり、無理なく受講することができた。
- ④ 基本的な体験活動を中心に構成されていたので、体験活動に必要なスキルを身に付けることができた。
- ⑤ 学習指導要領の位置づけや、体験活動を通じた学級づくりの重要性について再確認できてよかった。

- ⑥ 今まで自分が関わってきた体験活動を振り返り、これからの指導について考えたいと思った。
- ⑦ 講義の中でも新しい発見があったり、実習でも初めての体験があったり、内容の濃い3日間だった。
- ⑧ 体験活動の重要性を改めて感じる事ができたので、教えていただいたことをこれからの指導に生かしていきたい。

(3) 成果

- ① 免許状更新制度の目的を活かすため、体験活動や講義の順番に流れを作ること
で、実践に活かすことのできる体験や今後の教育現場に必要な知識・技能を提供
することができた。
- ② 一方的な講義ではなく、体験活動やグループワークなどを設定することによっ
て、参加者同士の立場やお互いの意見を尊重しながら受講することができた。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインでの講義に変更した
講義もあったが、接続も含めてスムーズに運営でき、オンラインでの実施の方法
や手順に関する知識を得ることができた。

(4) 今後の課題

- ① 新型コロナウイルスの影響で日帰りへの変更や、緊急事態宣言で急にキャンセ
ルをせざるを得ない状況になった参加者もいた。事前に実施条件や、参加条件を
明確に設定し、施設も参加者も安心して申込や運営ができるようにしておく必要
がある。
- ② 講師との連絡を密にとり、変更や要望に迅速に対応できるようにする必要がある。

担当:企画指導専門職 延原 正章